

衛 生 学

1 構 成 員

	平成16年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	1人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	1人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	1人
技官（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	5人

2 教官の異動状況

青木 伸雄（教授）（H元. 11. 1～現職）

中村美詠子（助手）（H3. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（1編）
そのインパクトファクターの合計	17.10
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	6編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakamura, M, Aoki N, Yamada T, Kubo N. (2003) Feasibility and effect on blood pressure of 6-week use of low sodium soy sauce and miso (fermented soybean paste). Circulation Journal 67 (6) : 530-534.

(雑誌名が改変－旧Japanese Circulation Journalされ、2002年版Impact factorの記載がないため2001年版Impact factorを記載)

インパクトファクターの小計 [0.71]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Asia Pacific Cohort Studies Collaboration. (2003) The effects of diabetes on the risks of major cardiovascular diseases and death in the Asia-Pacific region. *Diabetes Care* 26 (2) : 360-366,2003
2. Asia Pacific Cohort Studies Collaboration. (2003) Cholesterol, coronary heart disease and stroke in the Asia Pacific region. *International Journal of Epidemiology* : 32 : 563-572.
3. Asia Pacific Cohort Studies Collaboration. (2003) Blood pressure and cardiovascular disease in the Asia-Pacific region. *Journal of Hypertension* 21 (4) : 707-716.
4. Asia Pacific Cohort Studies Collaboration. (2003) Blood pressure indices and cardiovascular disease in the Asia Pacific region. A pooled analysis. *Hypertension* 42 (1) : 69-75.
5. 那須恵子, 中村美詠子, 青木伸雄, 近藤今子, 飯樋洋二, 菊池祐二. (2003) 赤血球変形能と性, 年齢, 血圧, 肥満, 血清脂質, 飲酒及び喫煙習慣との関連. *日本衛生学雑誌* 58(2):287-297.

インパクトファクターの小計 [16.39]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakamura M, Yoshiike N. (2003) Current systems of national and regional nutrition surveys and future direction. *Journal of community nutrition*. 5 (2) : 59-64.
2. 青木伸雄. (2003) コホート研究の成果 (10) Physicians' Health Study. *動脈硬化予防* 2(3) : 86-88.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 中村美詠子, 青木伸雄, 玉腰暁子, 中島務, 星野知之, 黒沢美智子, 稲葉裕, 喜多村健, 福田諭, 村井和夫, 岡本牧人, 宇佐美真一, 暁清文, 福島邦弘: 突発性難聴, ムンプス難聴の全国疫学調査成績 — 推計患者数と受療率 —, 厚生労働科学研究研究費補助金 特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究 平成14年度総括・分担研究報告書, 81-84, 2003.
2. 中村美詠子, 吉池信男, 由田克士, 多島早奈英, 石田裕美, 高橋東生, 横山徹爾: 都道府県等栄養調査に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用, 平成14年度 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業 『健康日本21』における栄養・食生活プログラムの評価手法に関する研究」報告書, 44-40, 2003.
3. 中村美詠子, 吉池信男, 田中平三: 国民栄養調査を利用した都道府県別栄養関連指標の検討. 1-149, 2003

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 星野知之, 中村美詠子, 青木伸雄, 岩崎聡, 名倉三津佳, 岡村純, 伊東由幾, 林泰広, 姜洪仁, 種田泉, 川名弓美, 林原能子, 関敦郎, 新村久美子, 水田邦弘, 釣田美奈子, 中崎浩一, 熊切健一: ケースクロスオーバーデザインを取り入れた突発性難聴症例対照研究 — 中間報告 —, 厚生労働科学研究研究費補助金 特定疾患対策研究事業 急性高度難聴に関する調査研究 平成14年度総括・分担研究報告書, 12-13, 2003.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 中島務, 喜多村健, 福田諭, 村井和夫, 岡本牧人, 宇佐美真一, 星野知之, 暁清文, 福島邦弘, 富永光雄, 杉浦淳子, 中村美詠子, 青木伸雄, 玉腰暁子: 2001年発症の急性高度難聴全国疫学調査, 厚生労働科学研究研究費補助金 特定疾患対策研究事業 急性高度難聴に関する

る調査研究 平成14年度総括・分担研究報告書, 81-84, 2003.

2. 静岡県県民健康基礎調査検討会：平成14年度県民健康基礎調査検討会報告書，静岡県健康福祉部長寿健康総室健康増進室，1-39，2003.

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (360万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (350万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

青木 伸雄（代表者）基盤研究（C）(2)「地域住民を対象とした緑茶飲用の高脂血症改善効果に関する研究」50万円（継続）

中村美詠子（代表者）基盤研究（C）(2)「抗酸化物質と炎症反応指標・動脈硬化指標との関連：ベースライン調査」310万円（新規）

(2) 厚生科学研究費

中村美詠子（分担者）健康科学総合研究事業「健康日本21」における栄養・食生活プログラムの評価手法に関する研究 350万円（継続）代表者 独立行政法人国立健康・栄養研究所理事長 田中平三

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	12件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

中村美詠子 第49回東海公衆衛生学会, 2003年7月, 浜松

3) シンポジウム発表

中村美詠子 国立健康・栄養研究所公開セミナー, 2003年10月, 東京

4) 座長をした学会名

中村美詠子 第49回東海公衆衛生学会, 2003年7月, 浜松

青木 伸雄 第40回静岡県公衆衛生研究会, 2004年2月, 静岡

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

青木 伸雄 日本循環器管理研究協議会 監事

東海公衆衛生学会 理事

日本栄養改善学会 評議員

日本公衆衛生学会 評議員, 編集委員

日本疫学会 評議員

日本衛生学会 評議員

中村美詠子 日本疫学会 評議員

日本循環器管理研究協議会 評議員

日本栄養改善学会 評議員

東海公衆衛生学会 評議員

日本公衆衛生学会 査読委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	2件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

中村美詠子 Journal of Epidemiology (Japan Epidemiological Association), Editorial Board,
Medline登録有, IF (Thomson ISIに登録された。今後IFが公開される予定)

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

アジア太平洋地域におけるコホート共同研究 (Asia Pacific Cohort Studies Collaboration),

NHMRC Clinical Trials Centre, The University of Sydney (Australia), Clinical Trials Research Unit, The University of Auckland (New Zealand)等, 平成10年より継続中, データ・担当コホートに関する資料提出, 分析検討, 論文執筆チームへの参加.

(2) 国内共同研究

吉池信男 (独立行政法人国立健康栄養研究所) 等 都道府県栄養調査等に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用に関する研究

杉浦 実 (独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所) 日本産カンキツに関する栄養疫学研究

中神未季 (愛知厚生連渥美病院健康管理センター) 等 緑茶に関するRCT

(3) 学内共同研究

岩崎 聡 (耳鼻咽喉科学) 等 突発性難聴に関する症例対照研究

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. アジア太平洋地域におけるコホート共同研究 (Asia Pacific Cohort Studies Collaboration) : テーマごとに分析が進み, 次々と成果が公表されている (論文参照)。

(中村美詠子, 青木伸雄)

2. 日本産カンキツに関する栄養疫学研究: ベースライン調査が終了し, 現在論文準備中である。みかんに多く含まれるβ-cryptoxanthinが三ヶ日町民では非常に幅広く分布しており, 世界他地域では明らかにしにくい知見が得られつつある。

(中村美詠子, 杉浦実¹) ¹独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所

3. 都道府県栄養調査等に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用に関する研究: わが国の栄養・食生活状況における生態学検討を行い, 現在論文投稿中である。また, 公衆栄養学的展開として, 13に示した成果が得られている。

(中村美詠子, 吉池信男¹, 由田克士¹) ¹独立行政法人 国立健康・栄養研究所

4. 突発性難聴に関する症例対照研究: 現在引き続きデータ収集中である。

(中村美詠子, 岩崎聡¹, 青木伸雄) ¹本学耳鼻咽喉科

5. 緑茶に関するRCT：本年度は研究実施体制を構築した。平成16年4月より研究参加者募集・RCTを開始する。

(中村美詠子, 中神未季¹, 青木伸雄) ¹愛知厚生連渥美病院健康管理センター

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

1. 「都道府県栄養調査等に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用に関する研究」において作成し、全国自治体に配布した「国民栄養調査データを活用した都道府県別栄養関連指標の検討(報告書)」は、日本全体の栄養関連指標を示すために設計された国民栄養調査のデータを5年間プールして、都道府県別に検討(記述疫学的検討)したものである。健康増進法に規定された役割をになう都道府県等のニーズにこたえるものとして、各方面より非常に多くの反響を得た。報告書の内容の一部(BMIの都道府県別地図)は、NHKスペシャルでも紹介された。
2. 「都道府県栄養調査等に関する各種手法の検討及び地域における栄養・食生活データの活用に関する研究」において作成し、全国自治体及び管理栄養士養成校に配布した「地域における健康・栄養調査の進め方」は、今までにわが国になかった地域における健康・栄養調査の標準化、Quality Controlに貢献する参考資料として、多くの支持を得た。

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道

1. NHKスペシャル「データマップ 63億人の地図 第1回 寿命～2004年いのちの旅～」
2004年1月25日(日)午後9時00分～10時00分
 2. 静岡新聞「ミカンと健康, 疫学調査」2003年9月27日(土)朝刊
 3. 中日新聞「生活習慣病: ミカンの予防効果立証へ調査始まる」2003年9月27日(土)朝刊
 4. 時事通信社・官庁速報「ミカン産地で健康調査」2003年10月1日(土)
 5. 読売新聞「ミカン: 三ヶ日町民を健康調査」2003年10月10日(金)朝刊
- *2～5以外に、三ヶ日町栄養疫学研究については、多くの県内ニュース等で紹介された。